

第7章 アジア諸地域の繁栄 (近世アジア)

1. 東アジア世界の動向

(1). 明 (1368 ~ 1644)

- ▶ 初代 太祖 洪武帝 (本名 朱元璋, 位 1368 ~ 98)、首都 南京
貧農出身、元末の紅巾の乱に参加し頭角をあらわす

※一世一元の制……明・清では、皇帝1代につき年号も1つ → 皇帝の通称は「年号+帝」

- 元の時に政府最高機関であった 中書省、およびその長官である丞相を廃止
六部 を皇帝直属とする → 官僚制に立脚した皇帝独裁政治
- 兵農分離
 - 民戸……租税台帳 = 賦役黄冊、土地台帳 = 魚鱗図冊
里甲 制 (農村の自治制度、輪番で里長・甲首をつとめる)
 - 軍戸…… 衛所 制 (兵 112 人で百戸所、10 百戸所で 1 千戸所、5 千戸所で 1 衛)
- 民衆教化…… 六諭 (聖諭六言)
「孝順父母、尊敬長上、和睦鄉里、教訓子孫、各安生理、毋作非違」
- 一族を北辺に王として封建し対モンゴル国境防衛 ※内地は州県制

- ▶ 2代 建文帝 (1398 ~ 1402) ……諸王勢力削減図る

1399-1402 靖難の変

叔父の燕王 (北平を拠点とする) によるクーデタ

洪武帝	└	○	—	建文帝
				永楽帝

- ▶ 3代 成祖 永楽帝 (1402 ~ 24) …… 1421 北京 遷都

<内政>

- 内閣大学士

翰林院 (皇帝直属の学問所、詔勅の起草を行う) の学士が皇帝顧問として入閣
→ のち内閣が六部より上位になり、首席内閣大学士が事実上の宰相となる

<対外積極策>

- 北……モンゴル高原に親征した中国史上唯一の皇帝
タタール (1410, 22, 24 陣没)、オイラート (1414) を討つ
- 南……ヴェトナムの陳朝を滅ぼす (1400) → まもなく黎朝が独立 (1428-1789)
- 東……朝鮮王国 (李朝) を服属させる
- 西……イスラム教徒の宦官 鄭和 率いる艦隊の南海遠征 7 回

※海禁政策 (民間の海上交易禁止) & 朝貢貿易 (外交・交易の政府管理)

⇔ 南洋華僑 の発生 (東南アジアへの移住者)

▼ 北虜南倭

- ▶ 北虜……モンゴル人

- 北元 (1371-88、元の残存勢力、東モンゴリア)

- オイラート (瓦剌、西モンゴリア)

エセン (也先、?-1454)

1449 土木の変 ……正統帝を捕虜とし、北京包囲

- タタール (韃靼、東モンゴリア)

ダヤン=ハン (位 c.1487-1524) による統一

チンギス=ハンの子孫、後世のモンゴル貴族の大部分の祖先

アルタン・ハン (位 1551-82、ダヤンの孫)

1550 北京包囲 1570 明と和し青海・チベット方面進出

→チベット仏教がモンゴルへ広まる

第3代ダライ・ラマを青海に迎え、第4代にはアルタンの曾孫が就任

- ・南倭……倭寇
 - 前期倭寇……日本人海賊が中国・朝鮮沿岸を侵す
 ↔ 日本との勘合貿易……合札を用いた朝貢貿易
足利義満は「日本国王」に封ぜられる
 - 後期倭寇……中国人による密貿易船が主 → 16c.半、海禁政策緩和

- ▶ 中興……神宗 万曆 帝 (1572-1620) の治世初期
 内閣大学士 張居正 の改革
 税制改革……一条鞭法 の全国的採用
 地租と丁税 (人頭税) を一本化して銀で納入させる
 (海禁緩和で日本銀・メキシコ銀が大量流入していた)

※万曆帝は10歳で即位。1582年張居正没後は宦官重用し政務放棄
 「明の滅ぶは実は神宗に滅ぶ」と言われる

- ▶ 衰退・滅亡
 - ・豊臣秀吉 の朝鮮侵略に対する援軍派遣→財政難
 - ・官僚たちの党争……東林 派 (江蘇省の東林書院関係者) VS 非東林派 (宦官と結ぶ勢力)

1644 李自成 の乱……農民反乱軍が北京占領、崇禎帝自殺し明滅亡

<明の周辺諸国>

▶ 朝鮮半島

李 朝 朝鮮 王国 (1392 ~ 1910、李氏朝鮮) ……首都・漢城 (ソウル)

建国者 李成桂 (太祖、1392-1408) ……倭寇撃退に功績
 明に服属、科挙整備、朱子学の導入

15c.前半 世宗 (1418-50) ……訓民正音 (ハングル) の制定、金属活字印刷

16c.以降 科挙による文武の官僚 (両班) が特権階級化。党争を繰り返す

1592-93、97-98 壬辰・丁酉 の倭乱……豊臣秀吉 の侵略

↔ 李舜臣 率いる水軍 (彼自身は戦局終盤に戦死)

▶ チベット王国 (吐蕃)

15c. ツォンカバ (1357-1419) によるチベット仏教改革、黄帽 派創始

教主 ダライ・ラマ の統治する教団国家となる。首都ラサ、ポタラ宮殿
↳アルタン・ハンがこの称号を贈る (モンゴル語で「大海」の意)

※ダライ・ラマは「活仏」で、その地位は「転生」により受け継がれる。

▶ 琉球王国

15c 初 尚氏による統一……朝貢貿易で得た品をもとに、東シナ海・南シナ海の中継貿易。

1609 日本の薩摩藩主・島津氏によって制圧される
 以後、清と島津氏 (日本) の両国に服属する

▶ 東南アジア

・ヴェトナム……1400 永楽帝、陳朝を滅ぼす

→ 黎 朝 (1428 ~ 1789) ……明清に服属。国内は有力2氏による南北分裂。

- ・ミャンマー……トウングー 朝 (1531 ~ 1752) → コンバウン 朝 (1752 ~ 1885)
- ・タイ ……アユタヤ 朝 (1351 ~ 1767) → ラタナコーシン 朝 (1782 ~ 現)
- ・マレー半島……マラッカ 王国 (14c 末 ~ 1511)
- ・スマトラ島……アチェ 王国 (15c 末 ~ 1912)
- ・ジャワ島 ……マタラム 王国 (1580 ~ 1755)

(2). 清 (1616 / 36 ~ 1912)

ツングース系 女真 族 (ジュルチン、女直、のち満州=マンジュと改称)
「満州」は民族名→のち中国東北部の地方名となる

- ▶ 初代 太祖 ヌルハチ (1616-26)
 - 1616 建国。国号をアイシン (満州語で「金」の意、後金) とする。
 - 1619 サルホの戦い……明軍を破り遼東を奪う
 - 1621 首都・遼陽 → 1625 瀋陽に遷都 (太宗が盛京と改称)

※ 八旗 の編成……軍事組織かつ行政・社会組織

1 グサ (旗) = 5 ジャラン = 25 ニル = 7500人 ∴ 8 旗 = 兵 6 万人
のち支配下のモンゴル人・漢人にも八旗を編成させる

- ▶ 2代 太宗 ホンタイジ (1626-43)
 - 1635 内モンゴルの チャハル部 を服属さす。=最初の藩部 (→後述)
 - 1636 国号を清とし皇帝と称す。
 - 1637 朝鮮を服属さす。
- ▶ 3代 世祖 順治帝 (1643-61) 1638生、初め叔父の睿親王ドルゴンが摂政、1651から親政
 - 1644 李自成の乱で明滅亡
→山海関を守る明の将軍 呉三桂 が清に降伏
その案内で清が北京占領・遷都、中国支配開始
 - ※ 三藩……功績のあった漢人武将3名を南方に封建し藩王とする。
呉三桂 (雲南)、尚可喜 (広東)、耿継茂 (福建)

※ 綠營 の編成……八旗とは別に、漢人で組織する常備軍

以下3代100年の全盛期

- ▶ 4代 聖祖 康熙帝 (1661-1722)
 - 1673-81 三藩 の乱……三藩を撤廃しようとして反乱を招くが鎮圧
 - 1683 明の遺臣 鄭成功 を滅ぼし 台湾 を領有、中国統一完成
(台湾・1624 オランダ支配、1661 鄭成功がオランダ勢力駆逐)
 - ※鄭成功 (1624-62)……父は海賊あがりの貿易商、母は平戸の日本人女性
明の遺児を奉じて清に抵抗、朱姓を賜り「国姓爺」と呼称
 - 1684 海禁政策解除 (三藩・鄭成功を鎮圧後) → 銀の流入
 - 1689 ネルチンスク 条約……ロシアの ピョートル1世 と
外興安嶺を満州とロシア領シベリアの国境に定める。
※中華帝国が初めて外国と対等な関係で結んだ近代的条約
通訳にイエズス会宣教師も同席参与

※新税制 = 地丁銀 への移行 (→後述)

- ▶ 5代 世宗 雍正帝 (1722-35)
 - 1727 キャフタ 条約……モンゴル北辺におけるロシアとの国境
 - 1732 軍機処 設置……のち政府最高決定機関に (→後述)
- ▶ 6代 高宗 乾隆帝 (1735-95、康熙帝の在位61年を越えないために太上皇帝として引退、1799死)
領土最大に
 - 1750 チベット反乱鎮圧 (←康熙帝晩年より支配強化)
 - 1758 ジュンガル 部 (西モンゴリアのオイラト部の後裔) を滅ぼす
 - 1759 東トルキスタン (回部=イスラム系トルコ人、ウイグル) 併合

↓
※ 理藩院 整備……藩部の管理統率機関 (→後述)

1757 ヨーロッパ船来航を 広州 1港に限定 (再び海禁・鎖国体制へ)
公行(コウ) (特許商人の組合) による交易独占

<清の諸制度>

- ▶ 税制 ※明末以来の一条鞭法の基本……地税と丁税（人頭税）を一本化し銀納
→ 土地を所有しない者にとっては丁税負担が過重になっていた
せいせいせいじんてい
1713 盛世滋生人丁（康熙50=1711年以後の増加人丁）への丁税を免除
丁税を免れるために出生を届け出ない者が多かったが
以後は国家の把握する人口は急増 → それでも丁税過重
- **地丁銀**……丁税を地税に繰入れ、人頭税廃止（康熙末年から雍正期にかけて全国実施）

- ▶ 満漢偶数官制……すべての官職において、満州人と漢人を同数ずつ任命

▶ **軍機処**

初め、雍正帝が対ジュンガル部戦の際に、軍事的緊急決裁の機関として設置
軍機大臣の下に軍機章京（満章京、漢章京）を置く
満州語文書は満章京をへて満州語で、中国語文書は漢章京をへて中国語で決裁
↓
※征服王朝のため第1公用語は満州語……内閣では中国語文書を満州語に翻訳してから上奏
やがて、内閣を経由するのは形式的文書のみとなり、軍機処が事実上の政府最高機関に

▶ **理藩院**……藩部の統率機関

太宗がチャハル部を征服した際に「蒙古衙門」を設置
→ 1638 理藩院と改称 → 乾隆期の領土拡大で整備される

※清の領土と勢力範囲

}	領土	{ 直轄地……満州・中国・台湾
	藩部	{ ……征服した内陸諸部族
}		{ チャハル部（内モンゴル） ハルハ部（外モンゴル）、
		{ チベット、青海（ワラ部）
		{ ジュンガル部・回部 → 新疆 と称す

冊封体制下にある属国……朝鮮、ヴェトナム、タイ、ミャンマー
琉球も日本・清の双方に朝貢

※直轄地と藩部をあわせると、現在の中国の領土よりも広い

▶ 中国人抑圧策

{ **弁髪**（満州人の髪型）の強制
文字の獄……知識人抑圧
禁書……思想統制、それとセットで大規模編纂事業を実施

※元とは異なり、科挙はそのまま存続させる。 =宋以来の漢人地主官僚層が温存

(3). 明清の社会・文化

- 大土地所有・佃戸制の進展 ⇔ **抗租運動**=佃租をめぐる佃戸の地主に対する抗争
(1448 鄧茂七の乱)
- 長江下流の江浙地方は家内制手工業（綿花栽培・養蚕→綿織物・生糸）
穀倉地帯は中流域の湖広（湖北省・湖南省）へ＝「湖広熟すれば天下足る」
- 同業者・同郷商人の相互連絡機関……**会館**・**公所**
↳ **山西商人**・**新安商人**（徽州）など政府と結びついた特権商人
- 生糸、陶磁器（代表的産地＝**景德鎮**）はヨーロッパにも輸出される

▶ 明・清の国家的編纂事業

- 明……永楽帝（靖難の変に対する批判を抑えるために学者動員）
「**永楽大典**」「**四書大全**」「**五経大全**」「性理大全」
- 清……漢人知識人に対する懐柔策として
「**康熙字典**」、「**古今圖書集成**」、「**四庫全書**」
(康熙帝) (康熙・雍正) (乾隆帝)

▶ 明・清とキリスト教……イエズス会宣教師による布教・西洋文化紹介

宣教師名	中国名	出身国	業績
マテオ・リッチ	利瑪竇	イタリア 1583	世界地図「 <u>坤輿万国全図</u> 」作成 徐光啓と協力しユークリッド幾何学紹介「 <u>幾何原本</u> 」
アダム・シャル	湯若望	ドイツ 1622	崇禎帝に仕え徐光啓と天文学書翻訳「 <u>崇禎曆書</u> 」 清の順治帝にも仕え、欽天監監正（天文台長）に
フェルピースト	南懷仁	ベルギー 1659	清に仕え欽天監副監（天文台次長、湯若望の助手） 三藩の乱の際、大砲を鑄造し工部侍郎となる
ブーヴェ	白進	フランス 1688	中国全土の実測地図「 <u>皇輿全覽図</u> 」作成 「康熙帝伝」を著す。（ルイ14世の命で渡来）
レジス	雷孝思	フランス	1698 渡来。上に協力。「易経」をラテン語訳。
カスティリオーネ	郎世寧	イタリア 1715	康熙雍正乾隆3代に仕える。 <u>円明園</u> 設計 西洋画法紹介。

※ 典礼問題 ……カトリック諸派の中国における布教方法論争

イエズス会宣教師は、信者に孔子崇拝・祖先祭祀などを認め、布教に成果。
⇨他派の宣教師が、これを批判しローマ教皇に訴える。

1704 教皇（クレメンス 11 世）はイエズス会の方法を異端として禁止
⇨康熙帝はイエズス会以外の布教を禁止

1724 雍正帝により、キリスト教布教全面禁止

▶ 明の文化

- ・ 儒学 陽明学 …… 王陽明（名は守仁、陽明は号、1472-1528）
心即理＝無学な庶民でも心の中に道徳を持っている
知行合一 ……徳の実践を重視
→官学である朱子学の主知主義を批判

- ・ 科学技術書（実学）
李時珍「本草綱目」、徐光啓「農政全書」、宋应星「天工開物」
- ・ 絵画 北宗画（院体画）…仇英、南宗画（文人画）…董其昌
- ・ 小説 ……「水滸伝」「三国志演義」「西遊記」「金瓶梅」（＝4大奇書）
- ・ 戯曲 ……「牡丹亭還魂記」
- ・ 陶器 ……染付、赤絵

▶ 清の文化

- ・ 考証学
明末清初期 ……社会秩序回復には事実に基づく実証的な研究が必要
「経世致用」（実際の生活に役立つこと）を重視。陽明学を空疎な議論として批判。

黄宗義（1610-95） ……著書「明夷待訪録（めいいたいほうろく）」
1663 異民族専制を批判し、漢人の民族意識を鼓舞
顧炎武（1613-82） ……著書「日知録」
1644 随筆の形をとった社会全般に対する批評

※上2人は明滅亡に際し復明運動に関わった。しかし清の天下となった際には、
節を守って仕官せず学問に専念した。（それを康熙帝が認めていたのも偉い。）

清代 ……思想弾圧のもとで、経典・諸文献の校訂、言語学的研究
錢大昕（1728-1804） ……清代考証学の大成者

- ・ 公羊学 ……清末、社会改革・実践重視（1898年、変法運動の指導者 康有為 ら）
- ・ 小説 ……「紅樓夢」「儒林外史」「聊齋志異」
- ・ 戯曲 ……「長生殿伝奇」「桃花扇伝奇」

2. イラン

(1). ティムール帝国 (1370 ~ 1507) ……首都 サマルカンド

- ▶ 建国初代 ティムール (位 1370-1405、チャガタイ・ハーン出身)
チャガタイ=ハン国分裂に乗じてトルキスタン統一、西進してイル=ハン国旧領も併合
- 1402 アンカラの戦い ……オスマン朝トルコを一時壊滅さす
明を討つため東方遠征。その途上で死。
- ▶ 4代 ウルグ=ベク (1447-49)
天文学者 (1429 天文台建設、『天文表』)、数学者、歴史家 (『四汗国史』)
しかし自ら即位するとまもなく内乱
- 1500 ウズベク 族がサマルカンド占領、→ 1507 滅亡
- その後、中央アジアには、トルコ系 ウズベク族 の **3ハン国** 成立
ブハラ (1500-1920)、ヒヴァ (1512-1920)、コーカンド (1710-1876)

(2). サファヴィー朝 (1501 ~ 1736)

- ▶ 初代 イスマイール1世 (位 1501-24)
ササン朝以来のイラン民族国家建国…… シャー の称号 (イラン伝統)
シーア 派を国教とする ⇔ スンナ派のオスマン朝と対抗
- ▶ 5代 アッバース1世 (1587-1629) ……最盛期
1598 イスファハーン 遷都 「イスファハーンは世界の半分」

3. インド

◎南インド……ヴィジャヤナガル王国 (1336-1649)

海上貿易で繁栄。1498年、ヴァスコ・ダ・ガマ来航。

◎ ムガル帝国 (1526 ~ 1858) ……首都 デリー

- ▶ 初代 バーブル (1526 ~ 30)
ティムール帝国末期の皇帝。ウズベク族に追われてアフガンからインドへ。
1526 パーニーパット の戦い……ロディ朝を滅ぼしデリー入城、建国。
- ※ シク教 の成立……始祖 ナーナク (1469-1538)
人類は一つと説き不可触民への差別を批判した カビール の影響を受け、ヒンドゥー教改革。
一神教的・偶像崇拜否定。カースト制度反対、苦行禁止。 →パンジャブ地方に普及。
- ▶ 3代 アクバル (1556 ~ 1605)
北インド統一。 アグラ 遷都 (以後も何度か首都となる)
ヒンドゥー教・イスラム教の融和を図り、 ジズヤ を廃止
- ▶ 5代 シャー・ジャハーン (1627 ~ 58) ……アグラに亡妃の廟 タージ・マハル 建立
隣接して自らの廟も建てる予定だったが、息子に幽閉廃位されたため成らず
- ▶ 6代 アウランゼーブ (1658 ~ 1707)
南端を除く全インド統一。最大領土。
厳格なイスラム主義者。 ジズヤ を復活し、ヒンドゥー教徒の反発を招く。
帝の死後、各地で諸勢力の自立割拠
ラージプート族 (上層カースト、西部)、 マラータ王国 (中部)
シク教徒 (パンジャブ地方)、 マイソール王国 (南部)
帝国の公用語：ペルシア語
→インドの言語と融合し ウルドゥー 語に
(現パキスタンの国語) 現インドはヒンディー語

4. トルコ

◎ オスマン 朝トルコ帝国 (1299 ~ 1922)

- ▶ 初代 オスマン1世 (1299 ~ 1326)
1299 セルジューク朝から自立 小アジア西北部に建国 首都ブルサ(2代オルハンから)
- ▶ 3代 ムラト1世 (1360 ~ 89)
1366 ビザンツ帝国からアドリアノーブルを奪い遷都、エディルネに改称
- ▶ 4代 バヤジット1世 (1389 ~ 1402)
1396 ニコポリスの戦い
ハンガリー王ジギズムント(のち神聖ローマ皇帝)率いる連合軍を撃破
1402 アンカラの戦い……ティムールに破れ一時帝国壊滅
1413 までオスマン皇帝空位、しかしまもなく国力回復
- ▶ 7代 メフメト2世 (1444-46,51-81)
1453年 コンスタンティノーブルを攻略しビザンツ帝国を滅ぼす。
↳ イスタンブルと改称し遷都。
セルビア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、アルバニアを服属さす
- ▶ 9代 セリム1世 (1512 ~ 20)
1517年 マムルーク朝を滅ぼし、エジプト・シリア領有
マムルーク朝の管理下にあったメッカ・メディナの保護権を獲得し、
スンナ派イスラム教徒の中心になる

※マムルーク朝に保護されていたアッバース朝カリフの末裔を保護。
のち、カリフ位も獲得したと主張(スルタン=カリフ制度)するが18世紀の虚構。
- ▶ 10代 スレイマン1世 (1520 ~ 66)
1526 モハーチの戦い……ハンガリー領有
1529 第1次ウィーン包囲
※神聖ローマ皇帝カール5世と対立していたフランス王フランソワ1世と同盟
↓
1536 フランスにカピチュレーションを認める(条約案に合意、1569年に条約締結)
領内での居住・通商の自由、領事裁判権を承認
→のちイギリス(1579)・オランダ(1613)などにも

//
※当初はオスマン帝国からの“恩恵的貿易特権”
→のちヨーロッパ諸国との形勢が逆転すると“不平等条約”に

1538 プレヴェザの海戦
スペイン・ヴェネツィア連合海軍を撃破、地中海制海権掌握
- ▶ 11代 セリム2世 (1566 ~ 74)
1571 レパントの海戦
スペイン無敵艦隊に敗北。
しかしその後も東地中海の制海権は維持し、
17世紀末までヨーロッパ諸国との勢力逆転は許さず
- ▶ 12代 ムラト3世 (1574 ~ 95) ……最大領土

<社会制度>

- ・ティマール制……騎士にティマール(徴税権)を認めた土地を付与
=イクター制を継承した制度
- ・イエニチェリ
バルカン半島のキリスト教徒の子弟を強制的に集めイスラム教育を施し、
スルタンに絶対的な忠誠を誓う歩兵軍団に組織